

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475200299	事業の開始年月日	平成12年4月1日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	医療法人社団三喜会		
事業所名	グループホーム中原		
所在地	(211-0041) 神奈川県川崎市中原区下小田中3-2-25		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、ご入居者様のご自身で選択したり、自己決定できる場面を多く持てるように配慮し、日々の暮らしの中にある楽しみや願いが少しでも実現できるように努めている。
また、ご入居者様の状態変化に素早く対応ができるように、往診医との協力体制を作り、看取りケアを行える体制を整えている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年2月21日	評価機関 評価決定日	令和6年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR南武線「武蔵中原」駅から徒歩約10分の住宅街にあります。同一法人のデイサービスを併設しています。法人は神奈川県下で医療および多数の福祉事業を展開しています。

<優れている点>

地域との繋がりを大切にしています。運営推進会議構成員でもある町内会・民生委員・ケアプラザと連携を図り、祭りや花火大会などの地域行事に積極的に参加しています。また、腹話術・傾聴・掃除のボランティアの情報を得て受入れも行っています。近所から冷凍庫やひな人形の寄付も受けるなど、地域に事業所の存在を周知し、利用者が地域の中で生活できるように支援をしています。事業所前の小学生の登校の見守りは利用者の日課にもなっています。また、手作りの食事を提供しています。食材の仕入れから料理まで全て行い、利用者に「美味しい食事」を提供できるように注力しています。

<工夫点>

オンライン動画配信サイトを活用しています。接遇・身体拘束・虐待防止の教材から、利用者の懐かしい昭和の音楽や、昔の人気テレビ番組を探してリビングのテレビで視聴しています。法人の広報担当者による、毎月ホームの様子や散歩の様子を伝える「ファミリー通信」の発送や、随時SNS配信し、家族だけでなく、遠方の親戚にも利用者の様子を伝えることができ安心に繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム中原
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		✓	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		✓	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		✓	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		✓	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	定期的なカンファレンスの中で共有できるように努めている。	法人名「三喜会」は「利用者・家族、地域、職員の三者が喜ぶ」に由来しています。尊厳を守る個別ケアをベースに、安全で楽しい生活を目指しています。職員は適宜、動画による接遇研修を受講しています。受講1ヶ月後に振り返りも行い理解度の確認もしています。ミーティングには法人職員も参加し意識を高めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染対策により、地域イベントが行われず直接参加する機会がなくなっている。近隣からいらなくなった物品の寄贈があったり、つながりは持っている。畑をしている方から芋ほりの誘いを受けた。	下小田中町内会に参加し、町内会主催の正月行事・夏祭などに参加しています。腹話術・傾聴・清掃ボランティアが来訪を受けています。小学生の登校時の見守りは、利用者の大きな楽しみとなっています。近所から冷凍庫や、ひな人形の寄付も受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域からの相談に対して丁寧な説明を実施している。感染対策のため、会合形式では行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染対策のために集まったの会議を開催できていない。	運営推進会議は昨年7月から対面会議を再開しています。家族・町内会・民生委員に加え、法人の居宅サービス部も出席します。事業所の運営報告や、地域の行事情報を得るなど活発な会議となっています。芋ほりの誘いや、利用者の栄養面に関し、タンパク質補完食品の提案なども受けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	かわさき基準（KIS）認証製品のモニター評価事業に参加して、専門的なアドバイスなどを行うなど協力に努めています。中原区のグループホーム協議会にも参加してもらい、意見交換も実施している。	川崎市主催の、質の高い介護サービスにより要介護度改善、維持を目指す「健幸福寿」企画に参加しています。市の福祉用品開発プロジェクト（KIS）のモニターになっています。中原地区グループホーム協議会に参加し災害時の相互扶助や空室情報交換をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法人作成の高齢者虐待防止マニュアルをもとに、身体拘束をしないケアの実践に努めています。 年1回の自己チェックシートを用いた各自の言動のチェックや、動画を活用した勉強会を実施している。	法人居宅サービス部作成のマニュアルを基に研修し、動画研修も行っています。 毎年厚労省発出の「高齢者虐待防止に関わる一斉点検」を行っています。日頃の自分の言動の振り返りをしています。特に、思わず発してしまう不適切な言葉遣いに気をつけています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的なチェックシートの活用と、動画視聴を行い、勉強会を実施している。	法人居宅サービス部作成のマニュアルを基に研修し、管理者が選んだ動画での研修も行っています。虐待防止は職員の体調や精神状態が大切と捉え、休憩時間や5日の有給休暇も確実な取得に向けて管理しています。シフトの組合せを工夫し人間関係の安定に努めています。	現在準備中の虐待防止対策の推進が期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関して専門的な勉強会は実施していない。 入居者の中に制度を利用している方がいるという程度の認識である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始時に直接の説明を行い契約書にサインをいただいている。 契約等の変更時には都度文書などを用いて確実な説明を実施し、ご理解をいただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者の家族には、毎月状況報告を送付して利用者の日々の様子を伝えています。感染対策のため、直接の面会などは行えていませんが、オンラインでの面会もできるように声掛けや、文書での案内も行っている。	毎月法人が作成する、4つの事業所の「ファミリー通信」全てを家族に送り安心に繋げています。SNSなどでも情報を発信し、家族だけでなく、遠方の親戚にも情報を伝えることができています。職員の手書きによる健康状態などを記載した手紙を毎月送り、利用者の様子を伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の定期的なカンファレンスの中で気づいたことや意見、改善案などを話し合い、改善が図れるように努めている。	ミーティングの中で、職員から設備や業務について、活発な意見が出ます。レクリエーション企画や、利用者の水分補給の為に温・冷コーヒーマーカーの設置も職員からの提案を反映しています。法人居宅サービス部も出席し、職員意見を吸い上げています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に人事評価を実施し、能力向上を図れるように働きかけを行っている。体調面でも配慮し、勤務形態や働き方の相談も受け、柔軟に対応をしている。	遅番・早番・夜勤など、職員の家庭状況を勘案してシフト作成をしています。各職員が年間目標を設定し、管理者が半期ごとにその結果を査定して昇級・昇進に繋げています。休憩・休暇の取得もしっかりと管理しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の介護部や、居宅部主催の研修への参加や、外部研修への参加ができるように声掛けを実施している。定期的なカンファレンスの場を利用して、ケアの質を高めるよう努めている。	2ヶ月ごとの三喜会本部長主催の全社管理者会議で、法人全体の情報を共有しています。職員は法人主催の研修会や外部研修にオンラインで参加しています。新人職員とパート職員は、2ヶ月間の教育計画に基づいて学んでいます。資格取得に際し、研修日は出勤扱いとしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	中原区のグループホーム協議会が再開された。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始時に、本人の状況や思いなどを聞き取り、情報を職員で共有した上で、入居者がその人らしく生活できるよう関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前後より家族の要望や思いを伺い、ケアプランに反映をしている。 毎月入居者様の様子をご報告したり、行事の際にとった写真をお送りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	開始時のご本人やご家族の抱えている悩みや要望などを、前ケアマネジャーやサービス提供者等から情報を得るように努めて、環境の変化に早く対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の身体能力を把握し、これまでに行ってたことを極力継続席のように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、入居者の生活の様子や、体調などを報告している。 行事など行った際には写真を取り、送付している。 電話でのやり取りも行い、安心できる関係を構築している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染対策により、外出の機会が少なくなっているが、散歩などを利用し古くからあるお寺などにお参りをしたりしている。 また、地域の祭事がある際は積極的に参加して、地域との交流を図っている。	事業所向かいにある安楽寺は、何時もの散歩やお花見処として、利用者にとって馴染みの場所となっています。折り紙や貼り絵など、得意なことに集中する利用者もいます。オンライン動画配信を活用し、懐かしい童謡や、テレビ番組の視聴をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性が悪くならない様座席のレイアウトに配慮したり、体操や歌、散歩などで個別に交流が図れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	折々、必要に応じてご家族の様子など手紙や電話で連絡を取っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	要望のあった利用者に対して、ご家族と相談のうえで訪問マッサージや訪問理美容を受け入れしている。	日々の会話の中で、ホームでの過ごし方やしたい事、食べたい物などを聴いています。特に食べ物の希望が多く出ています。利用者の思いの確認が困難な場合は、提供時の表情や家族、生活歴で把握に努め、提供し確認をしています。職員はミーティングで情報の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス開始時にこれまでの生活状況などを聞き取り、家事や掃除などできることは継続してできるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりのこれまでの生活スタイルや暮らし方を把握し、無理のないような生活が送れるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を伺ったうえで本人の望む生活に向けて計画作成担当者はカンファレンスや日々の申し送り、居室担当者からの情報をもとに介護計画とモニタリングを行っている。	計画作成担当者が、家族や本人からモニタリング時に満足度や意向を確認しています。居室担当者の意見や申し送り情報から支援の実施と達成状況の確認をしています。日常生活動作能力の現況、アセスメント要約表の計画必要度など多様な資料から課題とケア内容を決め、計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録や職員間の連絡ノートに新たに得た情報を記載し、職員が共有出来るよう努めている。 また、医療の情報や処置の指導についても個人記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族が対応出来ない時の受診支援や外出には職員の勤務を調整して柔軟に対応出来るよう努めている。 衣類や生活物品で必要になったものは、家族にも相談のうえで職員と共に購入している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の情報を得よう努めているが、資源の活用とまではなっていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々に月二回の往診を受けている。 また、必要な時には臨時往診もしていただいている。他科受診は家族が対応出来ない時や緊急時は職員が対応している。	入居時に訪問医の受診の了解を得ています。訪問診療ではバイタルや体調の確認、血液検査、予防接種、相談など健康管理をしています。必要時に訪問歯科医の受診や皮膚科など他科受診など個別に応じ、適切な医療連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の業務で気づいた事や変化を看護師に報告し、利用者に適切な看護医療が受けられるよう支援している。看護師は介護職員に介護指導や観察ポイントなどアドバイスしている。看護師は医師との連絡報告を常に行い個々の利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には安心して治療に専念していただけるよう病院関係者、医療関係者、家族との連携を密にしている。入院中の病院訪問も密に行い家族への報告も行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族に終末期のあり方を確認し希望に添えるよう努めているが、施設内で出来ないこともあることを了解していただいている。急な状態の変化に対しても事前に手順を作成し、落ち着いたケアが出来るように努めている。	看取りを希望する家族が増えています。医療行為ができない事業所での看取りを説明し、納得・同意の上、看取りを実施しています。看取り希望による退院後の再入居も受け入れています。家族の宿泊など職員と共に、日常生活の延長で、自宅のような環境を大切に看取りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急マニュアルにそって対応出来るよう勉強会を行っている。夜間は職員が一人になるので近隣の職員の協力を得ることもある。緊急連絡網の更新を都度行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は同一建物内であるデイサービスと合同で年2回行っている。備蓄は水、食料、おむつ、利用者の緊急時ファイル等を持ち出し用としている。	地震や夜間想定訓練を実施しています。介助が困難な避難所よりも、耐震構造の事業所内に留まる方が適切な場面も想定しています。備蓄品と非常持ち出し袋の内容を確認しています。地域の煙体験や土嚢作りなどの自主防災訓練にも参加し、協力体制を築いています。	突然起こる災害や頻回に発生している地震災害に備え事業継続計画（BCP）の重要性を再確認し、早急な策定と職員の通知と訓練の実施に取り組むことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報、プライバシー保護について勉強会を行っている。 また、日々の業務の中で気になる点について注意したりカンファレンス内において話し合っている。	「虐待防止と権利擁護」研修及び自己チェックや、「認知症対応」の動画で利用者の人格を尊重した対応を周知しています。拒否行動時の対応については本人の人格や生活歴を含め、原因と対策を話し合い、適切な言葉かけや対応の共通認識で支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が話したい時には、極力傾聴するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	主体は利用者であることを常に意識し本人の思い、要望を最優先しているが、職員のペースになっている時には注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整髪、爪切り等は状況をみながら行っている。服装についても好みがある利用者には本人の意向を聞いている。髪染めの希望がある際には、本人の了解のもとでカラーリングも行う。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の利用者の好みや食事形態について考慮している。 季節に合わせた行事食も提供している。 食べたいものについての要望も聞き、献立に取り入れるようにしている。	週4日職員が献立、食材購入も含めて手作りの食事を提供しています。テーブル拭きや食器洗いなど利用者自ら行っています。水分とタンパク質の強化を図り、多種類の飲み物と温冷のコーヒーメーカー機で好みに応じています。人気メニューの提供や、脳トレ活動にもなる食べ物アンケートなど、食事が楽しめる取組みをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を毎日チェックし、栄養が偏らないよう把握をしている。補食として、補助食品や飲料も複数提供し、必要な栄養がきちんと摂れるよう働きかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々の能力に応じて口腔ケアが出来るよう支援している。一人で出来ない利用者には、食事、おやつ後に口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の利用者の行動を観察し、排泄のタイミングがつかめるよう支援しトイレに誘導している。尿意がある場合は、トイレへの誘導も行い、トイレでの排泄を促している。	適切なトイレの声掛けや誘導で退院後のオムツから紙パンツへの向上や、布パンツ使用の維持など自立排泄を支援しています。水分強化、オリゴ糖、ヨーグルトなど食生活で自然排便を促しています。職員同士が尿もれの原因を探り快適な排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維不足を補う為、白米には胚芽押麦を足し提供している。また、おやつ時にはヨーグルトとオリゴ糖を提供する等、食事の工夫を行っている。下剤の使用を極力行わないように工夫をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の利用者の希望に応じた入浴が出来るよう努めている。利用者の状況により2人介助で入っていただいている。少しでも季節感を味わっていただけるように、しょうぶ湯やゆず湯なども取り入れている。	希望に応じ、夕方の入浴や同性介助を行っています。爪切り前の足浴や2人介助で自立入浴・清潔保持を支援しています。浴室内の乾燥と暖房設備で温度差の配慮や湯温調整、化粧品や保湿クリームの塗布、利用者自ら着かえの用意など、安全とリラックスに配慮した入浴支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の状態に応じ就寝時間に合わせた睡眠が出来るよう支援している。夜遅い方にはお話し相手になるなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の利用者の服薬内容を把握し安全な服薬が出来るよう努めている。日々の健康チェックや状態を医師に報告し薬の調整をしていただいている。内服薬での疑問点には、薬剤師への相談も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴や嗜好の把握に努めている。出来ることが継続出来るよう洗濯物たたみやお掃除など職員とともに行っていただいている。また、四季折々の行事食を取り入れている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の重度化により外出の機会が少なくなっているが、日向ぼっこや車いすでの短時間の散歩など極力取り入れるよう努めている。外出希望のある利用者には職員がボランティアで支援している。受診の帰りにドライブすることもある。	花火大会・福祉祭りなど地域の催事の情報を得ています。近隣の寺院の散歩や、公園の花見、秋祭りの神輿や山車見物、芋ほりの収穫など多岐にわたり外出の機会を設けています。家族と法事にも出かけています。利用者の要望で日々外気浴を実施しています。	コロナ禍の状況を見つつ地域の催事の更なる活用、季節ごとの外出、家族や職員との買い物や馴染みの場所利用、外食などの再開を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が出来る状態ではなく、すべての方が施設での管理となっている。本人が購入を希望するものについては、職員が代理または、店舗へ利用者と同行して購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			9430	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知力の低下や家族との交流の少ない利用者のため難しい状況にあるが、必要時は電話やビデオ通話で話していたくこともある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分は清潔に使い、勝手の良い空間であるよう努めている。 行事の写真等も掲示出来るよう掲示板を多めに取り付けている。	陽当たりの良い場所にソファを設置し、日向ぼっこや休息ができる場所があります。トイレ内のペーパータオルは下向きに設置することで、利用者が使いやすく工夫しています。季節感や居心地よい空間に配慮しています。廊下には季節によって入れ替える風景の額を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	構造上の問題から十分とは言えないが、日当たりの良い廊下にソファや椅子を置くなどして、個の場所も確保できるよう努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は本人の馴染みの物や好みのレイアウトにしてあり机、テレビ、仏壇等を置いている。危険防止の観点からタンスなど持ち帰っていただいた部屋もある。	居室内は土壁、天袋・押し入れ、ひも付き蛍光灯など、利用者にとって懐かしく感じる和風作りになっています。夜間はワイヤレスチャイムで安全を図り、ドアの小窓にカーテンを設置しプライバシーの配慮と灯り漏れ防止を図っています。各人の生活ペースで過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各個人の出来る事や出来ない事を把握し安全に生活していただける努めている。歩行が不安定な方には付き添って歩いたり、出来る事への手助けや声掛けし職員と一緒にいたりしている。		

2023年度

事業所名 グループホーム中原
作成日： 令和6年 4月23日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	災害時における事業継続計画が暫定的なもののみで作成となっており、職員への研修や実情に即したものに修正していく必要がある。	暫定の事業継続計画を現状に即したものに修正する。	暫定の事業継続計画を職員に提示し、周知したうえで、実際に行動に移す際の問題点を洗い出して修正していく。	12ヶ月
2	21	散歩も含めた日常的な外出がコロナ禍によって実施しなくなっているため、徐々に再開して行く必要がある。	散歩や外出などを定期的に行える体制を作るとともに、地域の行事にも参加できるようにする。	散歩を日常的に行う体制を作る。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月